

幼児期の音楽グループレッスンと非認知能力との関係について ー 各種習い事との比較を通して ー

馬田一郎¹・河瀬諭^{1,2}・小川純一¹・米田英嗣³
(¹ヤマハ音楽研究所・²神戸学院大学・³青山学院大学)

概要

- ・集団での協調的な音楽学習活動が、児童の非認知能力の育成に寄与するとの仮説のもとに、**集団での各種習い事経験と子供の非認知能力との関係を検討**
- ・「音楽」、「集団」、「習い事」の3つの要因を考慮し、幼児期の各種習い事経験条件を設定し、条件間で非認知能力関連指標の値を比較

調査

- ・習い事経験の条件: (1)学習塾: 65名, (2)スイミングスクール: 84名, (3)ピアノ個人レッスン: 57名, (4)音楽グループレッスン(ヤマハ音楽教室): 66名, (5)習い事なし: 200名を設定
- ・4歳以上6歳未満の間に各条件のみを経験している小学校3年生児童を対象
- ・非認知能力関連指標: 「内発的-外発的動機付け」「日常生活スキル」「児童用Big Five」の3種
- * 児童用Big Fiveに関しては、質問項目に対する未回答の数が4項目以上の者、および信頼性基準により疑わしいと判断されたデータは分析対象外
=> 児童用Big Fiveについての各群の分析対象人数は、(1)41名、(2)47名、(3)39名、(4)59名、(5)98名

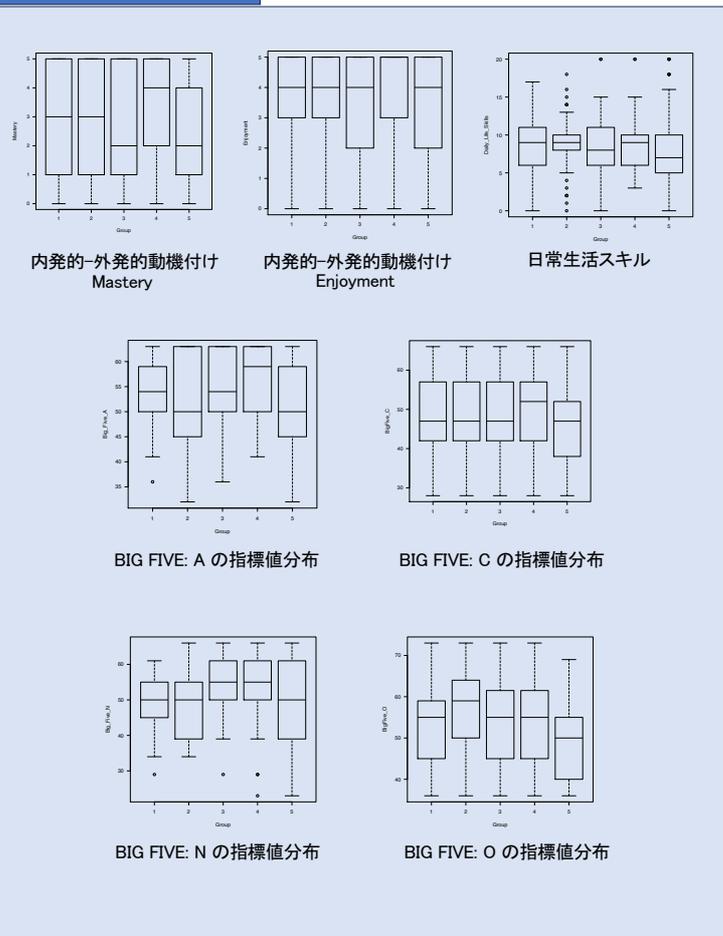
分析1: 手法

- ・内発的-外発的動機付け、日常生活スキル、児童用Big Fiveに関して、各項目の値について条件間でKruskal-Wallis検定を実施
- ・有意であった場合には、下位検定としてMann-WhitneyのU検定による対比較(p値の調整法: Steel Dwassの方法)

分析1: 結果

- ・条件(4)は(5)に比べ、内発的-外発的動機付けの mastery (自発性)と enjoyment (楽しさ)、および Big Five の協調性(A)、勤勉性(C)、開放性(O)で有意に高い値($p < .05$)
- ・条件(2)は日常生活スキルおよび Big Five のOにおいて条件(5)より有意に高い値($p < .01$)
- ・条件(3)は Big Five の神経症傾向(N)において条件(1)より高い値(情緒安定性が高い)、Oにおいて条件(5)より高い値($p < .05$)
- => 概して条件(4)「音楽グループレッスン」は動機付けにおいて高い値を示す
- => 条件(4)は、Big Five においても、A・C・Oについて高い値を示す

分析1: 各指標地の分布



分析2: 手法

- ・分析1の結果を受け、各条件で非認知能力と性格傾向との関係に違いがあるという仮説のもとに、相関分析を実施
- ・分析1で有意差に関係していた指標に着目
- ・非認知能力に関わる動機付けの2指標および日常生活スキル指標と、Big Fiveの4指標について、スピアマン相関分析を行い、条件ごとに相関構造を検討
- ・条件ごとに非認知能力3指標と性格傾向4指標の相関を分析するため、各条件ごとに Bonferroni の方法によりp値の調整
=> $p < .004$ を有意とする

分析2: 結果

- ・内発的-外発的動機付け
- ・ Enjoyment (楽しさ)
条件(1): A ($\rho = .458$), C ($\rho = .492$)で有意
条件(2): A ($\rho = .472$)で有意
条件(3): O ($\rho = .518$)で有意
条件(4): A ($\rho = .471$), C ($\rho = .467$), O ($\rho = .399$)で有意
条件(5): A ($\rho = .402$)
=> 全ての条件において、内発的-外発的動機付けの Enjoyment 指標と、BIG FIVE の何らかの指標が有意な相関を示している
=> Enjoyment と 協調性(A)が「条件(3)ピアノ個人レッスン」を除く全ての条件で有意な相関を示している
=> しかし、それ以外では、それぞれの条件で異なる相関構造が示されている
- ・ Mastery (自発性)
条件(5): C ($\rho = .585$)と O ($\rho = .381$)で有意
=> 内発的-外発的動機付けの Mastery 指標は、「条件(5)習い事なし」のみで、BIG FIVE の勤勉性(C)および開放性(O)指標と有意な相関を示している
=> 条件(1)(2)(3)(4)では、習い事を経験することにより、性格傾向と関わりなく Mastery が発現している？
- ・ 日常生活スキル
条件(1): C ($\rho = .564$), N ($\rho = .497$), O ($\rho = .464$)
条件(3): C ($\rho = .482$)
条件(4): C ($\rho = .400$), O ($\rho = .393$)
条件(5): C ($\rho = .423$)
=> 日常生活スキルと 勤勉性(C)が「条件(2)スイミングスクール」を除く全ての条件で有意な相関を示している
=> 日常生活スキルと勤勉性が相関を示すことは自然
なぜ「条件(2)スイミングスクール」では相関が見られない？

まとめ

- ・集団での各種習い事経験と子供の非認知能力との関係を検討
- ・結果1: 集団での音楽学習経験児童は、概して動機付けにおいて高い値を示す
- ・結果2: 非認知能力と性格傾向の相関構造は、習い事経験ごとに異なっている

補遺: 日常生活スキル測定(米田, 2022年作成)項目

大人の助けを借りて、簡単な家事を手伝う(例えば、拭き掃除、テーブルにお皿を並べる、ベットに餌を与える、など)
大人の助けを借りて、遊びや活動の場所を片づける(例えば、お絵かき道具、ブロックなど)
大人の助けを借りて、自分の物を片付ける(例えば、おもちゃ、本、雑誌など)
自分で、おでかけの準備をはじめる
言われなくても、自分から習い事のしたくをはじめる
家からよく知っている場所の道を覚えている(大人と一緒にいくとき、この道を曲がるんだよ、など説明ができる)
家から知らない場所の行き方を考える(大人と一緒にいくとき、この道を曲がってみたらどうかな、などと試行錯誤できる)
習い事に行き、自分から先生に挨拶をする
友人が遅れたり欠席したりしたとき、大人(幼稚園や保育園の先生など)に知らせる
体調が悪いとき、自分で先生に伝える

参考文献

- ・ Harter, s. (1981). A scale of intrinsic versus extrinsic orientation in the classroom, University of Denver.
- ・ Kawase, S., Ogawa, J. I., Obata, S., & Hirano, T. (2018). An investigation into the relationship between onset age of musical lessons and levels of sociability in childhood. Frontiers in Psychology, 9, 2244.
- ・ Kawase, S., Ogawa, J., Umata, I., Komeda, H. (2023). Effects of early childhood group music lessons on children's non-cognitive skills, in Proceedings of the 17th International Conference on Music Perception and Cognition.
- ・ 桜井茂男・高野清純(1985). 内発的-外発的動機づけ測定尺度の開発. 筑波大学心理学研究, 7, 43-54.
- ・ 村上宣寛・畑山奈津子(2010).小学生用主要5因子性格検査の作成. 行動計量学 37 (1), 93-104.